



リビングのサンルーム的な空間を西側洋室から見る

リビングと個室を仕切る建具を開放すると、ワンルーム的空間に。右手は北側隣地の森が迫り、左側は陽光が降り注ぐ。床面はヒートポンプ床暖房が敷設されている



1973年完成の既存建物が、全面道路拡幅に伴い、床面積が150㎡から90㎡に縮小された。

5人家族から4人家族へ入れ替わり、40%縮小のプランでは味気ない。そこで家庭内対策会議を開き、ポイントを3つ選んだ。1つ目は、この家族は大のコタツ好き。2つ目はタンスよりもハンガーに服をかける習性がある。3つ目は狭いのが嫌い。このポイントにより、答えは明確になった。

鉄骨造のため、柱と窓ばかりの外壁はそのままに、間仕切りは全て取り払った。中心にコタツのための畳を敷いたリビング(約26畳+キッチン付き)を配置。3つの個室はリビングに隣接させ、フルオープンになるよう片側固定式の建具のみで仕切っている。季節の良いときは、全て開放するとワンルーム的に利用でき、建具はそこに残るためルーバー的な存在となる。

リビングの一部に設けたハンガースペースは、春・夏・秋は森の緑を楽しむ場所だ。さらに、目隠しのためのブラインドを下げて照明をつけることで、間接照明としての役割も担っている。

開口が多く断熱的には不利だが、床暖房とコタツで家族は十分に暖かいとの感想。残暑の残る9月に入居していたが、川風や森のおかげで暑さも和らいでいるようだ。天窓の換気も効果を発揮している。

この住宅は溪谷を見下ろすビルの3階に位置している。そのため「磊々峽」が楽しめるよう、南側は腰下部分を全て連窓とし、それに沿うように天井にはトップライトも連続させた。ライトを落とすと星がきれいに見える。

コンパクトになり、より自然を楽しむ空間となった。

(文/早坂陽)



清潔感あふれる、開放的な水まわり

PROFILE

はやさか よう
 1984年 日本大学工学部建築学科 卒業
 卒業設計 校建賞
 (株)凡建築設計事務所
 1991年 構建築設計事務所アトリエ 設立
 1998年 (株)構建築設計事務所 室長
 2006年 (株)構建築設計事務所代表取締役
 2007年 司法書士会館外観デザイン当選

DATA

宮城県仙台市・Hさん宅
 家族構成 / 夫婦40代、子ども2人
 設計・監理 / (株)構建築設計事務所 早坂陽
 ☎022-262-3301
<http://kosekkei.sakura.ne.jp/>
 E-mail kosekkei@jade.dti.ne.jp
 施工 / 分離発注方式
 コンストラクションマネージャー (有)ハウスニセン
 ☎022-284-8661
 E-mail t.ishida@h7.dion.ne.jp

■建築データ
 構造規模 / 鉄骨造・3階建て、延床面積 / 90.00㎡ (約27坪)
 (住居部分のみ・吹抜除く)
 <主な外部仕上げ> 屋根 / 塩ビシート 外断熱タイプ、外壁 / 押出セメント成形板、建具 / 玄関ドア : アルミドア、窓 : アルミサッシ
 <主な内部仕上げ> 床 / タイルカーペット、壁 / 天井 / チャフウォール
 <断熱仕様> 壁 / 発泡ウレタン 20mm、屋根 / DN 防水外断熱仕様
 <暖房方式> 床暖房

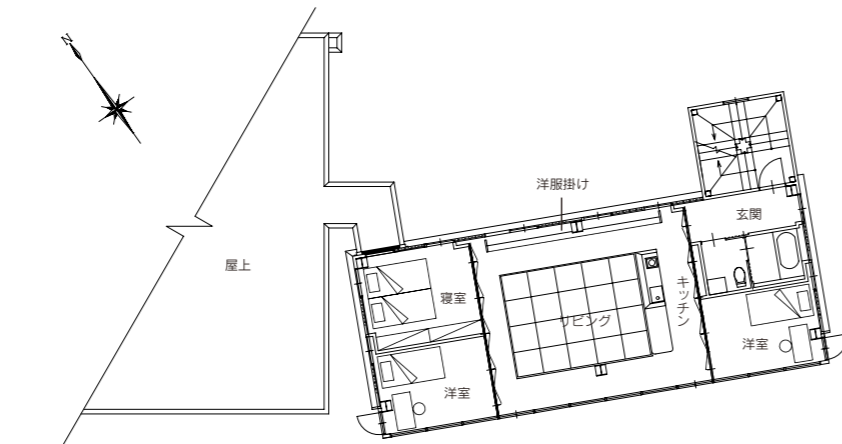
■工事期間 / 平成19年6月～平成20年9月
 (約15ヵ月 改修・解体含む)



リビング・キッチン全景。キッチンは1階の調理スペースで主に作業するため、簡易的なものを設置



「観橋」からの外観。多目的な利用の建物の最上階が住宅。商業施設的な役割が大きいため、意匠性も考慮した



3F



陽光が降り注ぐサンルーム空間を見通す

個室側からリビング・キッチンを見る。左のブラインド内側は洋服掛け

